

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4792400022		
法人名	社会福祉法人 高洋会		
事業所名	グループホーム ちゃたん		
所在地	沖縄県中頭郡北谷町宮城1番793		
自己評価作成日	平成26年10月22日	評価結果市町村受理日	平成27年3月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中で、利用者や職員が互いに協力しあい生活できるように努めている。日常生活の中で花の水やりや掃き掃除、テーブル拭きなど、本人が出来ることを行ってもらい、役割を持って生活できるように支援している。毎日レクリエーションや機能訓練を行い、認知状態、身体機能の維持を図っており、また、本人の希望により外出支援をするなど、その人らしい生活が送れるように寄り添ったサービスを行っている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kihontrue&Jizvsvocd=4792400022-00&PrefCd=47&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ		
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレスト西205		
訪問調査日	平成26年11月26日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

複合施設の2階にある当事業所は木調の内装で、玄関や廊下はススキや紅葉等の飾り付けで季節感を出し、落ち着いた雰囲気である。事業所内の温湿度は適度に管理され、クッション性のある床材や腰壁等を施し、安全面への工夫も随所に見られる。居室にはエアコンやベッド、空気清浄機や壁時計、テレビ、レース付き防火カーテンが設置され、利用者は友人の形見の三味線や家族写真等、思い出の品を飾っている。運営推進会議は利用者や家族、行政、地域代表、社協職員が参加し、運営状況や事故報告、外部評価結果等も検討され、改善に向けて取り組んでいる。職員の退職が続いた時期もあったが、現在は管理者や職員同士が、申し送りや会議等で、日常的に意見を言い合える雰囲気があり、職員はケアや業務内容等について話し合い、理念の実践に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目: 11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

確定日：平成27年2月16日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	就職前のオリエンテーションなどで事業所の理念について説明を行っている。理念について、会議内で話し合い、わかりやすい理念を作るように働きかけている段階である。	法人の理念（人材育成・顧客満足・地域貢献）に基づき、地域密着型事業所としての理念を管理者と職員で作成し、日々の実践に活かしている。昨年の外部評価を受けて、理念をより分かり易い表現にするための会議を開催し、協議を継続している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のミニデイなどへ出かけたり、保育園の運動会見学などを行っているが、日常的な地域との関わりは少ない。	法人として取り組んでいる町内清掃活動に当事業所の職員も参加し、住民との交流に努めている。地域に事業所のパンフレットを配布して、保育園との交流も行っている。踊りのボランティア受入れ等も取り組んでいるが、地域住民が気軽に立ち寄る関係性は、まだ構築されていない。	地域住民が事業所に立ち寄り易くなるようなきっかけとなるアイデアを職員間で話し合い、実践に繋げ、地域との交流が広がることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に出て行く機会が持てていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回の頻度で開催。運営推進委員からのアドバイスをもらい、サービス向上に努めている。	運営推進会議は隔月に開催し、利用者や家族、町職員（1回欠席）、自治会長、社協職員が参加して運営状況や事故・ヒヤリハット、外部評価等について話し合っている。委員の意見で、利用者が緊張せずに参加できるように、開催時間を早め、会場もフロアへと変更した。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進委員の中に町役場の職員も入っており、事業所の実情は伝えられている。ケアについて市町村との連携は少ない。	運営推進会議以外に、介護認定の更新時に利用者と共に行行政窓口に出掛けている。管理者が町役場に行った際は担当者とうようにしているが、具体的な連携は確認できない。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止についての勉強会等を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。事故防止のためセンサー等を活用している。玄関については、夜間や職員が見守り出来ない場合に施錠をしている。	契約時に拘束をしない方針を説明し、複数の職員が対応できる時は玄関の施錠はしていない。不穏時はその要因を検討し、家族と相談して外泊を取り入れている。見守りが必要な時は部屋を替えたり、ベッド柵にひもセンサーをつけたり、死角にミラーを設置する等で対応している。	

沖縄県（グループホームちやたん）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議の中などで、高齢者虐待について話す機会はあるが、勉強会などで学ぶ機会は持っていない。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度等を活用している利用者はいない。権利擁護について学ぶ機会は持っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に本人、ご家族も交えて面談を行い、グループホームの利用についての説明を行っている。十分に理解、納得されているかは分からない。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者やご家族からの要望について、申し送りノートに記載したり、ミーティングの中で職員へ周知をしたりしている。外部者へ表す機会が設けられていない。	利用者の意見は日々のケアや運営推進会議等で聞き、家族からは電話連絡や担当者会議、面会時に聞いている。家族からの接遇への苦情には、職員や法人の苦情対策委員会で対応している。7月から介護相談員を受け入れ、利用者の要望等を受けとめる体制がとられている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティングや会議などで職員の意見を出してもらい、反映させるように努めている。	職員は、毎日の申し送りや月1回の職員会議など、気軽に意見を言える機会がある。管理者は面談の機会を設け、職員個々の意見を聞いており、利用者のケアや業務改善、備品購入等の職員の意見を運営に反映させている。法人と連携して職員の資格取得の支援にも努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務の休み希望などを聞くなど、なるべく職員が勤務しやすいように努めている。外部の研修など、出来るだけ参加してもらい、やりがいのある職場作りをめざしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の勉強会や事業所での勉強会、外部の研修などにも参加してもらい人財育成に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	電話連絡での情報交換は行っているが、交流はもてていない。今後、町内の他のグループホームと連絡会を持つなどしていく予定。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人と面談し、本人の希望や困っていることなどを聞き取っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に本人、ご家族も交えて面談を行い、家族の要望などを聞き取っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	計画作成担当者によりアセスメントを実施し、サービス計画を作成している。他のサービスの位置づけは出来ていない。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や洗濯物たたみ、居室の整理整頓など、日常生活で行えることを自分で行ってもらい、役割を持たせている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の来所時などに本人の状況を説明するなどして、情報の共有に努めている。家族に対して現在のサービスを説明し、意見を求めるなどしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人のなじみの場所へ通ったり、人との関係を持つことが出来ていない。	家族から情報を得て、利用者は馴染みの美容室や地域ミニデイサービスの利用を継続している。親戚や友人の訪問を歓迎する等、関係継続の支援に努めている。認定更新時に利用者と共に役所を訪ねたり、近隣スーパーに出かけた際に出会った知人から情報を得たこともある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性を考えて席を配置し、お互いが交流を持てるようにしている。時には、利用者が他の利用者の介助を行うこともある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も連絡を取り、状態の確認を行うなど、関係を断ち切らないようにしている。また、希望があれば再び利用することも出来ると伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の生活の中で利用者へ声掛けし、思いや意向をくみ取るように努めている。また、本人から訴えることが難しい方については、ご家族へ確認したり、普段の様子からくみ取るようにしている。	利用者3名に対して職員2名の担当制を実施し、利用者の思い等をより深く把握できる仕組みを取っている。日々の関わりの中で利用者の発言や表情等から思いの把握に努め、困難な場合や特に気になる利用者は、職員を変えたり、部屋で話を聞くなどの工夫をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメント時に本人やご家族からの聞き取りの中で、生活歴や職業、趣味などを聞いている。グループホームの生活のなかで活かせるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的にあセスメントを取り、一人ひとりの状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的な本人、ご家族、職員を交えてサービス担当者会議を開催し、皆で考えてプランに反映させるようにしている。	利用者や家族、担当職員で話し合い、介護計画を作成している。半年に1度のモニタリングで満足度や達成度を確認し、評価に基づいて見直し、随時の見直しも行っている。計画がケアに反映されるよう要点を介護記録に転載しているが、日々の個別記録の充実度に課題が残る。	ケアプランを反映した記録の重要性について改めて職員間で話し合い、実践に活かすための取り組みが望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人個人のケース記録に日々の状態を記録している。状態変化などが見られた場合は申し送りノートに記載するなどして、周知に努めている。		

沖縄県（グループホームちやたん）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な対応を心がけているが、既存のサービス以外のサービスを活用するまでに至っていない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活かすまでに至っていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族で受診対応が困難な方に、往診が可能な診療所を紹介し、利用につなげたケースがある。家族も往診で対応できて助かると話していた。	利用者は家族が同行してかかりつけ医を受診している。変化のある際は情報提供票を作成し、バイタル表のコピーを家族に持参させ、受診結果は申し送りで伝達し、医師の返書は個人記録に綴り、疑問点は直接医師に電話で確認している。訪問診療を受けている利用者もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員の配置は無い。病院受診の際に、こちらの情報を病院の看護師に提供するなどしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時に病院の医師や看護師などと文書による情報交換等を行い、状況の把握に努めている。必要があれば病院へ行き、本人の状態確認を兼ねて、看護師等から情報収集している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期については、看護師の配置もないため受け入れが難しい旨を入居前に説明している。	重度化して胃ろうや痰吸引等の医療的支援が必要になった場合や終末期には対応できないことを、利用開始時に説明している。訪問診療時に医師から利用者の状況について説明を受け、入院した時は退院後の医療行為の必要性を確認し、家族にも伝えて話し合いを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故に備えて搬送のためのマニュアルや、緊急時の連絡体制等を整えている。訓練は実施されていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回程度、避難誘導訓練を実施。地域の津波避難訓練にも参加している。夜間の避難訓練が行えていない。	訓練は同一建物内の他の事業所と合同で、昼間想定消防署立ち会いの訓練と自主訓練の2回実施している。近隣に文書で呼び掛けたが住民の参加は無い。法人で食糧や自家発電機等を備蓄し、区の津波避難訓練に毎年参加している。防災マニュアルの見直しはしていない。	夜間を想定した訓練の実施、及び近隣住民への協力の呼びかけも引き続き行っていくことが望まれる。台風や火災、地震、津波の対応マニュアルについては定期的に見直し、実践に即した内容の改訂が求められる。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴時や排泄時など、プライバシーに配慮してケアにあたっている。職員同士での情報共有をしっかりと行い、その方にあった方法で対応するように心がけている。	理念に謳われている人格の尊重を柱とし、利用者の想いを否定せず汲み取り、自立支援に努め、利用者の自信につながるケアを日々の支援で心がけている。「なぜここに居るのか?」と利用を受け入れられない方には、丁寧に説明し、職員の言動は互いに注意し合う等、努力している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ケアを行う際に声掛けを行い、本人に決めてもらうように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間などある程度時間を決めていますが、基本的に本人の希望する時間に合わせて食事や入浴など決めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えする際など、本人に聞いて服を選んでもらっている。自分で決めることが難しい方は、外出する際など、その雰囲気に合わせて身だしなみができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	温かい物は温かく、冷たいものは冷たく提供出来るように努めている。好き嫌いに応じて、個別でメニューを変えて提供することもある。配膳、下膳が行える利用者については、手伝ってもらうこともある。	月～土曜の昼・夕食は下の階の厨房で調理し、朝と日曜の食事、おやつは事業所で栄養士の献立により調理している。朝食以外は、職員も利用者と一緒に同じ食事を摂っている。利用者は下膳や食器洗い等を行い、時にはプランターのネギでおやつのはらやちーを作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体の栄養士が作成したメニューに沿って食事を提供しており、栄養バランスはしっかりとしたものが提供出来ていると思う。本人の能力に応じて、スプーンや箸、自助皿を使用するなどしている。		

沖縄県（グループホームちやたん）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施。自分で出来る方は自分で行ってもらう、仕上げで職員が介助を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	歩行出来る方、移乗動作が行える方については、日中はトイレでの排泄を勧めている。夜間については、個別でおむつを使用したり、トイレへ誘導したりと支援している。	利用者は1人を除いて、日中はトイレで排泄し、夜間も6人が自立排泄である。利用開始時は同性介助で対応しているが、慣れてくると本人の意向を確認して、異性介助となる場合もある。トイレ利用時は扉の外で待つなど、プライバシーへの配慮も怠らないように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	常に水分摂取を勧めて、脱水を予防する共に便秘予防にも努めている。生姜湯などを提供し、便秘防止を図ると共に、抵抗力の向上を図り、健康維持に留意している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個人個人、入浴の曜日を決めて対応しているが、本人の希望によって、曜日を変更したり、時間を変えたりして対応もしている。	週2回の入浴が原則だが、希望があれば毎日でも好きな時間帯の入浴に対応している。1人で入浴したい方には、扉の外から声かけをしながら見守るようにしている。何名かの利用者は好みのシャンプーやローション等を個別に準備している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はなるべく起きてすごしてもらっているが、無理強いはいしていない。本人の希望によって、居室で休んでもらったりしている。就寝時間も本人の希望に応じて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人個人の薬の説明書を、すぐに目が通せる場所に設置。常に目をとおして把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花の水やりや洗濯物たたみ、食器拭き、掃き掃除など、本人が出来ることを行ってもらうように働きかけている。レクリエーションや手工芸、自分の趣味活など、楽しく行える活動も取り入れている。		

沖縄県（グループホームちやたん）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くのスーパーや近隣の散歩など、本人の希望に応じて出来る限り対応している。地域の方々と協力して行ったケースは無い。	近隣を散歩したり、スーパーで好きな刺身やノンアルコールビールなどを買ってくる利用者がいる。全員でいくドライブでは、ハーリーを対岸で応援することもある。毎月1回は郵便物等を届けに自宅を訪問し、選挙には家族と投票に行くなど、家族と過ごす時間も大切にしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	行事の一環として、外出して買い物を行う等実施している。その際にご家族より小遣いとしていくらかを預かり、本人に持たせて買い物を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は本人の要望により、かけたりすることはあるが、手紙のやり取りについては、要望等ないため、行っていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋の明かりや空調などに気を配り、快適に過ごせるように配慮している。季節感を感じてもらえるように飾り付けを行っている。	室内は清潔で明るく、玄関や廊下等はススキや紅葉等で季節感を出し、飾り付けや掲示物も工夫されており、稚拙さがなく落ち着いた。空調も適度な温湿度に調整し、クッション性のある床材や腰壁等、安全・安心な環境面への配慮も随所に見られる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間が狭いため、なかなかひとりで過ごすと言うことは難しい。利用者の相性を考慮して、座る席を変えたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に、居室へ、使い慣れたものの持ち込みが出来ることを伝えている。実際に自分が使う家具など持ち込んでいる方もいる。	エアコンやベッド等の他、空気清浄機や壁時計、テレビ、レース付きの防火カーテンが全室に設置され、友人の形見の三味線や家族写真等も置かれている。居室の扉横には顔写真が表札替りに飾られ、家具も一人ひとりの日常動作に併せて配置されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示を大きくして、わかりやすくし、自分でトイレまで行けるように工夫している。また、居室前に自分の名前を見やすく張り出すことで居室を間違わずに自分でいける		